

ルールブックの外来語表記

東 京の放送用語委員会では、今年度（2014年度）、外来語の表記と発音について議論をしている。

今回は、スポーツのルールブックにおける外来語表記を3つの項目で比べてみたい。

以下の13競技のルールブック（2010年以降のもの）中にある表記を調べてみた。

（野球、バスケットボール、バレーボール、ラグビー、アメリカンフットボール、バドミントン、サッカー、ホッケー、アイスホッケー、ハンドボール、水球、テニス、卓球）

■「プレーヤー」か「プレイヤー」か

原語の二重母音 [ei] を長音符号「ー」で表記するか「イ」で表記するのだが、「プレーヤー派」が優勢で8競技（野球、バレーボール、ラグビー、アメリカンフットボール、バドミントン、ハンドボール、水球、テニス）。また、卓球には「プレーイングサーフェス」、サッカーにも「インプレー」という表記があった。

「プレイヤー派」は、3競技という結果だった（バスケットボール、ホッケー、アイスホッケー）。

ただ、「プレーヤー派」の野球も「審判はプレイを宣告し…」と、アイスホッケーは「プレイヤー派」だが、「プレー中断中のプレイヤー交代の手順」と表記している。

■「ペナルティ」か「ペナルティー」か

語末の [-y] を長音符号にしているかどうかだが、これは「ペナルティ派」が多い。

7競技が「ペナルティ」という表記をとっている（野球、バレーボール、ラグビー、アメリカンフットボール、ホッケー、アイスホッケー、テニス）。

「ペナルティー派」は、3競技（サッカー、水球、卓球）。

フットボール系の競技でも、サッカーは「ペナルティー」、ラグビーとアメリカンフットボールは「ペナルティ」で分かれた。

■「アドバンテージ」か「アドヴァンテージ」か

原音 [va] を「バ」と「ヴァ」のどちらで書いているか。これは、「アドバンテージ派」が多く7競技（バレーボール、ラグビー、アメリカンフットボール、サッカー、ハンドボール、水球、テニス）。

「アドヴァンテージ派」は2競技（バスケットボール、ホッケー）だが、「ヴ」表記の使用を見ると、アイスホッケーに「ディレイド・コーリング・オヴ・ペナルティ」、卓球には「AヴァーサスX」があった。

見落としもあるかもしれないが、競技によって表記の慣用があるようだ。

競技関係者は、実際にどう発音しているのだろうか。

NHKは「プレーヤー」「ペナルティー」「アドバンテージ」と定め、発音と表記を一致させることを原則にしている。それが守れない場合は、まさに「ペナルティー」だ。

大出岳史（おおで たけし）